



こたえ合わせ



第1問

答え：2番「暑さも寒さも、季節の彼岸を境に和らいでいくものだ」

解説：春分・秋分のころの彼岸が過ぎると、暑さや寒さが落ち着いてくるという意味です。季節の移ろいを表した生活の知恵のことわざです。

第2問

答え：3番「時期外れで役に立たないものや、見当外れなことのたとえ」

解説：夏に暖炉（炉）、冬に扇（うちわ・扇子）は必要ありません。まったく役に立たないことや場違いなことを表す四字熟語でもあります。

第3問

答え：2番「夏にしか生きられない虫が、氷の存在を知らずにばかにする」

解説：夏しか知らない虫は氷の冷たさを経験したことがないため、氷をばかにします。自分の狭い経験だけで物事を判断する愚かさを表したことわざです。

第4問

答え：1番「少しの努力や助けでは、何の役にも立たないこと」

解説：焼けて熱くなった石に少量の水をかけても、すぐ蒸発して冷えません。そこから、わずかな助けや努力ではまったく効果がないことを表します。

第5問

答え：2番「蝉がいっせいに鳴く声が、しぐれ（雨）のように降り注ぐ様子」

解説：たくさんの蝉が同時に鳴く声を、雨（しぐれ）が降り注ぐ音に見立てた美しい表現です。俳句でよく使われる夏の季語です。

第6問

答え：2番「仕事をさぼって、無駄話などをして時間をつぶすこと」

解説：昔の油売りが、客の家で長々と世間話をして時間をかけたことから生まれた表現です。なまけてぐずぐずすることを指します。

第7問

答え：3番「土用のころに海に立つ、うねりの大きな波のこと」

解説：土用（7月20日ごろ～8月7日ごろ）の時期は、遠くの台風や低気圧の影響でうねりが大きくなり、海が荒れやすくなります。海水浴には注意が必要な時期です。

第8問

答え：2番「天下」（三日天下）

解説：「三日天下」は権力や地位が非常に短い期間しか続かないことのたとえです。明智光秀が本能寺の変の後、わずか11日で羽柴秀吉に討たれたことが語源とされています。

第9問

答え：2番「鶴」（鶴の一声）

解説：「鶴の一声」は、多くの人が議論しているときに、権威ある人の一言でまとまってしまうことを表します。鶴は高貴な鳥とされていたことからきた表現です。

第10問

答え：2番「大木」

解説：「旅人は大木の陰に宿る」などとも言い、暑い夏の日には大きな木の陰が旅人の休憩場所になることから、頼りになる存在・人のそばには自然と人が集まるというたとえです。